

令和5（2023）年度 学校評価表

長野県高遠高等学校

I. 学校目標

学校教育目標

高遠藩の学問所進徳館における拓世、迫真の実学の精神を現代的視野に立って生かしつつ、人格の完成と平和的な国家および社会の形成者の育成を目指す。

- 1 真摯な学問的精神の涵養、科学的思考力の増進につとめる。
- 2 積極性、自主性を養い、責任感を育て、個性に応じた指導を通じてその伸長につとめる。

中・長期的目標（スクールアイデンティティーとして）

- ①地域に根ざし、地域に学び、地域を拓く学校
- ②社会的リテラシーを身に付け、未知なる状況に挑戦し、進路を切り拓く生徒を育てる学校
- ③次代を担う豊かな人間性とコミュニケーション力を持った生徒を育てる学校

R5年度の重点目標	自己評価（％）				成果と課題
	A	B	C	D	
（1）人権が尊重される安心安全な学びの場を築き、生徒会活動やクラブ活動を通してルールやマナーを尊重する自律的な態度を育成し、生徒の規範意識を高める。（2②③）	33	53	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉使いを大切にしたクラス、部活動の運営ができた。 ・互いを尊重し高め合える学びの場作りに励むことができた。
（2）基礎学力の定着を図り、探究心やコミュニケーション力を育む教育活動を展開し、生徒の進路保障に繋げる。（1①②③）	33	67	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT等を使うなど、生徒1人1人の学力に伴った学習を促せた。 ・時間に追われ、生徒の自発的な活動時間を十分に確保することができなかった。
（3）コース制の特色や総合的な探究の時間を活かし、地域体験型学習活動の充実を図り、自己肯定感を高めることにより、自主性を	40	47	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・探究学習やコースの授業で、学校の特色や生徒の活動を基にした教育ができた。 ・校外学習や外部講師の授業など学びを深める機会を増やすことができた。
（4）地域づくりの中核校として、高遠学園構想推進連絡会の下、地域の教育機関や福祉施設・文化施設等と連携を深め、開かれた学校の役割を果たす。（2①②）	53	33	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特色や歴史を学習したり、教材を横断した教育ができた。地域の方々との交流を増やすことができた。 ・学校だけでなく福祉施設などとの繋がりも強めることができた。

本年の重点目標について、次の4段階で全職員による自己評価をおこないます。
A：ほぼ目標を達成した B：どちらかといえば目標を達成した
C：どちらともいえない D：あまり達成できなかった

Ⅱ. 項目別評価(R5年度)

令和6年1月24日

学校改革推進調整委員会

対象	5年度評価項目	5年度評価の観点	成果と課題
1学年	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立 学習習慣と基礎学力の定着 コミュニケーション能力と社会性の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 授業を大切に、参加する生徒を育てることができたか。 遅刻・欠課・早退しない意識を持たせることができたか。 ノートや課題を期限内に提出する大切さを伝えることができたか。 学年研修旅行や学校行事に積極的に取り組めるように計画できたか。 自らの特性を理解するとともに相手の個性を認め、適切な距離感や交友関係を保ち、いじめやからかいを抑止することを啓蒙できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒は真面目に授業に参加することができた。 △体調不良以外で遅刻や欠課が常態化している生徒が一部に見られた。 ○担当教員の指導もあり多くの生徒は期限内に提出ができた。 ○文化祭等生徒が中心となって活動することができた。 △距離感をうまく保てず相手に立ち入り過ぎてしまい、人間関係がぎくしゃくする例が見受けられた。教員が生徒の話を聞いたり、間を取り持つことで解決につとめたが、生徒自身で解決できるよう精神面での成長を促したい。
2学年	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立 学習習慣と基礎学力の定着 コミュニケーション能力と社会性の向上 進路実現に向けた意識づけ 	<ul style="list-style-type: none"> 授業を大切に、参加する生徒を育てることができたか。 遅刻・欠課・早退しない意識を持たせることができたか。 ノートや課題を期限内に提出する大切さを伝えることができたか。 学年研修旅行や学校行事に積極的に取り組めるように計画できたか。 進路見学会、職業を知る講座を通して、進路について具体的に考えさせられたか。 希望にあった進路を考えられるように自己の適性がわかるように支援できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ほとんどの生徒が真剣に取り組むことができた。 △一部の生徒に遅刻や欠課の常態化が見られた。 ○粘り強く指導し改善が見られた。 ○事前学習や準備の段階から参加出来るように計画し、活気ある行事を行うことが出来た。○様々な進路行事を通して進路先について考え、より具体的な進路先、就職先を模索することが出来た。 ○適性診断テスト等を活用して自己理解を深めることが出来た。
3学年	<ul style="list-style-type: none"> 自主的な学習の定着 社会性の伸長 進路実現 	<ul style="list-style-type: none"> 進徳ルームの活用の定着化が進められるか。 進学補習、就職補習、模試を定期的に行い、生徒たちの自主的な学習のサポートが行えたか。 文化祭やコースの活動を通じて、生徒たちと地域をつなげる環境づくりを行えたか。 生徒たちの進路実現に向けて、進路先の開拓ができたか。 進路係と連携し、個に応じた適切な進路指導ができたか。 挨拶や言葉遣いなど社会に出るために当たり前にできなければならないことを身に付けることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○少数ではあったが定着が進められた ○進学の補習、就職補習、模試を定期的に行い、サポートを行うことができた。 ○文化祭やコースの活動で、環境づくりを行うことができた。 ○進路先の開拓をすることができた。 ○個に応じた適切な進路指導をすることができた。 △試験などに向けて行うことはできたが、乱れてしまう部分があった。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の特性の適確な理解 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の日常生活をしっかりと観察し、変化やサインを見逃さなかったか。 個々の生徒の特性がよく話し合われ、職員間の情報交換が十分に行われているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任、学年、係が中心となり、生徒の日常生活を観察し、変化やサインを見逃さないように務めた。 ・担任や各学年、生徒指導係が、個々の生徒の特性を共有し、職員間の情報交換を密に行っている。 ・日々の基本的な生活習慣や身だしなみ指導を実施した。繰り返し指導を受ける生徒もあり、指導方法を改善する必要がある。 ・仲間内で度を越えたいじり、悪ノリといった他者を軽視する問題行動が発生した。他者理解のトレーニングが必要。 ・スマホ、タブレット使用規定違反が頻発した。管理方法を検討する必要がある。
	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の基本的な生活習慣や身だしなみが自主的に守られるよう指導が行われているか。 規律の遵守を通して自主的・民主的集団作りの指導が行われているか。 	
生徒会	<ul style="list-style-type: none"> 自主活動を通じた自立的態度や自己肯定感、規範意識、コミュニケーション力等の育成 PTAや地域との協働 	<ul style="list-style-type: none"> 高遠城址公園などでのイベントへの協力ができたか。 兜陵祭を通して地域との関係づくりを支援できたか。 四者協議会の内容が充実するよう検討が進められたか。 PTAとの環境整備作業ができたか。 委員会活動などの生徒会活動を自主的に取り組めるよう支援できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○イベント行事へ参加できるようになってきた。 ○一般公開やテイクアウトなど地域との取り組みを改めて開始できた。 ○今後の高遠高校について短時間ではあったが意見交換ができた。 △コロナにより通常の参加はできなかった。来年度は全員で参加したい。 △SDGs活動等の取り組みがうまくできなかった。委員会活動の活性化をもっとうまく促していきたい。
クラブ活動	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の特性を理解し、生徒が選択した競技等を通して社会性の伸長を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ルールやマナーを尊重する自律的な態度を育成し、生徒の規範意識を高めることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○どのクラブにおいても競技力の向上に加え、礼儀やマナーの指導を行い、全校生徒の手本となるような行動をとっている。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に応じた弾力的進路指導 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個人の適性・取り巻く環境等を含め、総合的に進路に関する助言ができたか。 学年の状況に対応した指導となっているか。 各学年間や学校全体での指導とも連携をとれていたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○個人の適性等を考慮した進路指導をおこなった。 ○1、2年も学年行事として進路行事をおこなった。
	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の向上と進路試験対策 	<ul style="list-style-type: none"> 教科だけでなく一般常識や社会常識を基にした、基礎学力の育成ができたか。 継続的・組織的に基礎学力の向上がはかられ、3年生は試験対策となり得たか。 過去問題集『合格へのレシピ改訂版』を効果的に活用できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○『合格へのレシピ改訂版』を配布した。 △授業などで一般常識を含む基礎学力の取り組みについて考えたい。
	<ul style="list-style-type: none"> 多様な進路希望に対応した進路情報の提示 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個人・学年・時期等に応じた進路情報を提示し、自己実現の援助ができたか。 保護者に向けた情報提供は適切であったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○3学年保護者向けの進路説明会を実施した。

対象	5年度評価項目	5年度評価の観点	成果と課題
特別支援	生徒の必要に応じた指導支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> 支援を要する生徒の実態把握ができたか。 個々の生徒に応じた適切な支援ができたか。 各種研修会の内容を教職員が共有することにより、教職員がさらに指導支援の力を身につけることができたか。 	<p>○中学校との連携、保護者面談等を通して、生徒の実態把握が出来た。また職員会や委員会で共有し、把握することができた。今後も各学年との連携を密にし、生徒の実態把握に努めていきたい。</p> <p>△生徒にどのような支援ができるのか検討し支援をしているが、合理的配慮について定期的な評価や見直しが必要である。</p> <p>○職員研修会ではほとんどの職員が出席でき、有意義な研修となった。計画以上に研修会を行うことができた。</p>
学習指導	学習習慣の確立・個性を伸ばすきめ細かい指導	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力向上のため各学年の実態に応じた教科指導・補習などを行えたか。 生徒の希望に応じた補習授業、特性に適った個別指導を計画的に行なえたか。 進路実現に必要な文章力向上のための具体的な方策をとれたか。 	<p>○各学年ごとの実態に合わせて、教科別の補習や小論文指導などを行うことができた。</p>
	総合的な学習・探究の時間、「進徳ゼミ」の充実	<ul style="list-style-type: none"> 地域の教育力を活かした編成ができたか。 自己肯定感を高め、コミュニケーション力を高める活動を組み込めたか。 必要な資料の提供や相談活動を行えたか。 	<p>○探究学習では、高遠町の様々な分野の専門家の方を講師として招き、生徒の興味・関心に合わせた学習を計画することができた。</p>
	幅広い教養と豊かな人間性を育む	<ul style="list-style-type: none"> 全校道徳学習を行い幅広く、人権感覚等を磨く機会を提供できたか。 日常の中で生徒の、自尊心、他者の人権を尊重する意識・態度を高められたか。 上伊那地区高校合同芸術鑑賞(6月)を充実したものにできたか。 図書館の環境整備と利用を促進できたか。 	<p>○全校道徳学習では、菓匠Shimizu代表の清水慎一さんを講師として、講演会を行った。人を喜ばせる力「他喜力」についてお話しいただき、生徒からも好評であった。</p> <p>○上伊那の図書委員らでつくる上伊那高等学校図書館協議会では、生徒研究会・読書大賞投票・開票・座談会・活動交流など生徒による運営で実施された。</p>
	校内研修の計画と実施	<ul style="list-style-type: none"> 実践的な職員研修(特別支援、授業改善、キャリア教育等)の計画と実施をできたか。 職員同士で授業を見合う環境作りを行えたか。 	<p>○ロイノートの使い方や特別支援教育についての職員研修を実施した。</p> <p>△授業互見をどう広めていくかについては、今後の課題である。</p>
コース運営委員会	文理進学・福祉・芸術・情報ビジネスの各コースの充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> 各コースで行われる資格検定に積極的に取り組むように支援ができたか。 各コースの特色に応じて、探究的な学びを一層深める支援ができたか。 高遠高フォーラムにおいて、探究的な学習の成果を発表する支援ができたか。 	<p>○受検状況を把握し、生徒に受検を促すことができた。</p> <p>○各学年、コース主導で探究的な学びを深めることができた。</p> <p>○各授業、コースのおかげでとても充実した高遠高フォーラムとなった。</p>
学校改革推進調整委員会	<ul style="list-style-type: none"> 自己、他己評価を通じた学校運営への反映と教職員のチーム力向上 新教育課程編成に向けて、学校が置かれている現状、これから取り組まなければならないことを教職員で共有し、見えてきた課題に学校全体で取り組むことができる体制づくりを図る。 クラス減にともなうコースの再編 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価の見直しを行い、学校目標の達成に向けて手立てを講じることができたか。 学校評議会、四者協議会との連携がとれたか。 職員意見交換会を実施し、学校目標について理解を深めることができたか。 高遠高校の将来を見据え、魅力ある学校の実現に向けて具体的な提案ができたか。 	<p>△四者協議会において、生徒会役員中心に今後の高遠町、高遠高校について意見交換ができたがもう少し回数を重ねる必要があった。</p> <p>△職員研修会を開くなどの職員間での意見交換の場が時間不足であった。</p> <p>○クラス減に伴うコースの再編成については各教科に意見をいただきながら、教育課程委員会と連携をとり提案ができた。</p>